

第1章 序 論

1.1 アンケートの目的

今回、本校の JABEE 受審をきっかけに天野校長より技術者教育認定会議の第5小委員会として本校の教育機関としての内容についてエビデンスを得るべく、卒業生および企業の意見をまとめるよう依頼があった。委員会で議論を重ね、以下の3つのアンケートをほぼ同時に行った。

1. 専攻科修了生 (平成9年3月から平成14年3月までの6期, 111名対象)
2. 本科卒業生 (昭和54年3月から平成14年3月までの24期, 2487名対象)
3. 企業(高専卒業者を受け入れている, いないに関わらない)(626事業所対象)

それぞれのアンケートには、「JABEE 受審のために協力をお願いします。」と目的を記したが、21世紀を迎え益々高度化しグローバル化する社会の要請に十分に答えられる高等教育研究機関であり続けるために、常に自ら反省し、あるいは、外部からの評価に身をさらすことは、当然の責務と言えよう。

しかし、アンケートの目的は、JABEE 受審査のためのみではない。本校専攻科修了生および本科卒業生が現在どのような処遇のなかで生き抜いているのか、そして、社会(企業または事業所)は、本校専攻科修了生・本科卒業生をどのように評価しているのかを確かめ、同時に、卒業生、企業の両視線から高専の教育システムそのものをどのように評価しているのかを確かめることにより、彼らの声の中から高専の進むべき道を探るところにもある。

目的(企業アンケートから)

本校の本科卒業生と専攻科修了生に対する企業の評価、本校の教育目標に対する企業の意見その他本校に対するご要望を把握し、教育水準の向上に資する。併せて、高専全体に対する社会からのご要望等を把握するため、本校の卒業生が所属していない企業にも、アンケートをお願いしております。

1.2 過去のアンケート等について

これまで、徳山高専に関連して組織的に行われたアンケートには、以下の2つのものがある。報告書のまとめにあたり、これらのアンケートの内容を参考にすると同時に結果についても、比較分析資料として引用させていただいた。

- 1) 徳山高専同窓会、「同窓会10周年記念誌」,(1989年3月)
- 2) 徳山高専自己評価委員会、「徳山高専の自己点検・自己評価について - 卒業生からのアンケート結果を中心として - 」,(1998年3月)

1)のアンケートは、同窓会の設立10周年記念事業の中で行われ、卒業生の現状と本校への意見を求めたものだが、回収率は24%。高専を卒業して、まだ、最年長者が30歳という若い世代であり、彼らの声からは夢多き年代を感じさせられるものの、すでに徳山高専の将来について熱心に示唆してくれる卒業生の姿が垣間見られる。

2)のアンケートは、徳山高専自己評価委員会が平成8年度に、大山超校長からの課題を受けて行われたもので、回収率は15.6%と今一つであるが、主に高専の教育と教官の資質に対して問いかけたものであり、回答の内容(個人評価結果)を公開するか否かで一大議論になった経緯

があるが、情報量の多い内容の充実したものである。

また、この他に最近では、日本労働研究機構がまとめた「高専卒業者のキャリアと高専教育」、(1998年10月)が、高専卒業者の動向から現在の高専教育について考察している。

261ページ、3部9章からなるこの資料は、さすがに専門家がまとめたものであり内容も充実しており、高専を取り巻く社会の状況を高専卒業生のアンケート結果をもとに多角的にそして的確に掴んでいる。以下に、簡単に紹介する。

「高専卒業者のキャリアと高専教育」、日本労働研究機構、(1998年10月)

1章「既存データからみた高専の特徴」のまとめから

「・・・既存のデータからみる限り、高専は現在急激な変化を遂げつつある。この変化が「職業的レリバンス」の高い教育機関の性格を如何に変容させるのか、あるいはその性格のどの部分が残ってゆくのか。次章以降で調査データを用いた分析を進めていくことにしよう。」

9章「高専教育に対する卒業生の評価と意見」のまとめから

「・・・従来のような大規模製造技術職というような(高専にとって)典型的なポストが縮小するとともに第三次産業や小規模企業など従来は少なかった就職先が増加し、また地方では高専卒業者に大学に進学する者が増加するという大きな変化が生じている。このような現状のもとでは、卒業者のみならず、将来自らがたどると予想されるキャリアに即して、高専在学中の学生の間にも、意見やニーズの分裂が強まることは不可避であると思われる。このようなニーズの分化に対して、現状の高専のようにシンプルな学校組織のままでどこまで対応してゆけるのか、しかし地方でコース分けなど組織分化による対応をとった場合、高専が教育機関としての統合性をどこまで維持できるのかなど、検討と施策を要する課題は数多い。」

1.3 今回の各アンケートの実施方法と概要

修了生および卒業生のアンケートにあたっては、徳山高専同窓会の協力を得た。また、企業アンケートについては、株式会社西京総研の平原取締役よりアドバイスを頂いた。以下、簡単に各アンケートの内容を示す。

(1) 専攻科修了生アンケート

アンケートの内容と結果は付録に示す。回収率は51%(57名/111名中)であった。

専攻科修了生アンケートは、以下の5つのパートで構成されている。

1. 個人情報に関する項目
2. 現在の状況に関する項目
3. 高専7年間の教育に関する項目
4. 高専専攻科に関する項目
5. 専攻科教育目標について

(2) 本科卒業生アンケート

アンケートは、結果とともに付録に示す。回収率は12%(288名/2487名中)であった。

本科卒業生アンケートは、以下の4つのパートで構成されている。

1. 個人情報に関する項目
2. 現在の状況に関する項目
3. 高専7年間の教育に関する項目
4. 高専専攻科に関する項目

(3) 企業アンケート

アンケートは、結果とともに付録に示す。回収率は 26%(165 件/626 件中)であった。

企業アンケートは、以下の 4 つのパートで構成されている。

1. 修了生、卒業生の採用状況
2. 高専の教育目標に対する意見
3. 採用者の能力評価
4. インターンシップ制度と今後の採用について

1.4 各章の概要

以下、第 2 章では、平成 9 年から送り出している専攻科修了生（以下、修了生）の現状について分析し、第 3 章では、昭和 54 年の第 1 期から平成 14 年 3 月までに卒業した本科卒業生（以下、卒業生）の現状と比較している。また、第 4 章および第 5 章では、企業から寄せられた修了生および卒業生に対する意見をそれぞれ分析した。高専システムを高く評価している面は少なくないものの、一方で厳しい見方もなされている。第 6 章では、現在、本校が掲げている 6 項目の教育目標について社会（企業）の意見をまとめた。そして、第 7 章、第 8 章では、社会（企業）や卒業生から寄せられた生の声をもとに、今、高専に何を求められているのかを考察した。各章での主な分析内容を以下に掲げる。

第 2 章と第 3 章では、修了生・卒業生の現状をテーマに修了生および卒業生の各アンケートの結果から、以下の分析を行った。

- 1) 修了生・卒業生の就職先の傾向分析
- 2) 会社における修了生・卒業生の自己評価
- 3) 同窓会 10 周年記念誌におけるアンケート結果との比較、検討

第 4 章と第 5 章では、修了生・卒業生に対する社会的評価をテーマに企業アンケートの結果から、以下の分析を行った。

- 1) 修了生、卒業生の勤務評価
- 2) 徳山高専の教育に対する評価
- 3) 大学生との比較した場合
- 4) 高専生の英語について
- 5) インターンシップおよび今後の採用について

第 6 章では、高専の教育目標の評価をテーマに企業および修了生アンケートの結果から本高専が現在掲げている 6 つの教育目標について分析を行い、教育内容の満足度、教育目標の達成度を確認した。

第 7 章と第 8 章では企業、修了生そして卒業生の声から以下のような点についてまとめた。

- 1) 在学生へのメッセージ
- 2) 教官へのメッセージ
- 3) 高専教育への提言

（担当：田村）

